

読みたい聴きたい

福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー・大井実さんに、毎回テーマに沿った本と音楽を紹介していただきます。ジャンルを超えて楽しめる作品にぜひ、触れてみてください。

撮影/スタジオパッション

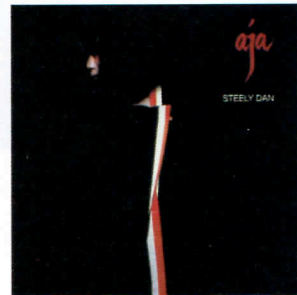
ココロに、 ウツクシク

(軽快でありながら、深さが際立つ作品)

軽快で親しみやすい作品ですが、とても深いメッセージが隠されています。

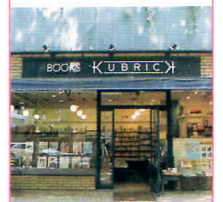


『赤頭巾ちゃん気をつけて』
庄司薫
中央公論新社
620円(税込)



『aja(彩)』
スティーリー・ダン
発売元/ユニバーサル ミュージック
2,800円(税込)
UICY-90764

■ 大井実さん
話題の一冊から普遍的な作品までを揃える福岡市内の書店「ブックスキューブリック」のオーナー。昨年10月には東区箱崎に第2店舗もオープン。お茶を楽しめるカフェスペースも併設しているそうです。
ブックスキューブリック
福岡市中央区赤坂2-1-12 ネオグランデ赤坂1階
☎092-711-1180 <http://www.bookskubrick.jp>



前号で紹介した『就職しないで生きるには』を読み返して改めて感じたのが、スピリットに溢れた本は時代を超えてもお残るものだという事。そんな中、次号はこのコーナーでどんな本をセレクトしようかと考えながら本棚で目についたのは、40年ほど前に発表された庄司薫の『赤頭巾ちゃん気をつけて』という小説でした。芥川賞を受賞した作品なのでご存知の方も多いかもしませんが、古典の再評価という意味も込めてご紹介したいと思います。

物語の主人公である、僕は、全国でも有数の進学校である日比谷高校に通う高校三年生。同級生が東大をはじめとする有名大学の受験準備に勤しむ中、彼自身は大学受験をしないという一大決意をしたというストーリーです。この本は、いわゆるエリートコースに進むことが「幸福」とする周囲の考えに違和感を持ちながら葛藤を続ける若者の姿を描いたもの。作品の舞台となる1960年代後半半の社会の世相を反映した内容が多いため、風俗小説として評価されがちなのが少し残念ですが、私はこの本は、立派な精神小説だ

と認識しています。文章が主人公の饒舌な語り口調で展開されているため、スラスラと読み進められるのも魅力のひとつ。けれどもテンポよく読み終えた頃には、改めて人生について考えさせられる奥の深い作品だと誰もが気づかされるのではないのでしょうか。今自分が生きている道に疑問を感じたら、進むべき道を模索することや、他人の意見を安易に取り入れるのではなく、本当に自分の感覚にぴったりくるまで悩みぬくことの大切さを伝えてくれるという点では、以前ご紹介し

た夏目漱石の『私の個人主義』にも通じる作品ではないかと思えます。CDはスティーリー・ダンというアメリカのロックバンドの一枚。彼らはロックやポップスを基調とした曲の中に、ジャズのテイストをさりげなく加えた技ありの楽曲を次々と生み出しています。そういう意味でも今回の本と同様、軽快でありながら深みがある作品が多いといった印象です。電子オルガンのテクニカルな音が効果的に使われていて、都会的な空気が漂っているところも、近いテイストを感じたので選んでみました。